

2019令和元年11月17日 明石、須磨、真野の榛原 羈旅歌を訪ねる
 梅花女子大 市瀬雅之先生

JR垂水駅—五色塚古墳—垂水日向遺跡—海神社 → JR須磨(須磨の浦海岸で昼食) → JR元町—生田神社—三宮神社→(地下鉄海岸線) 荻藻(かるも) 駅 榛原の歌碑



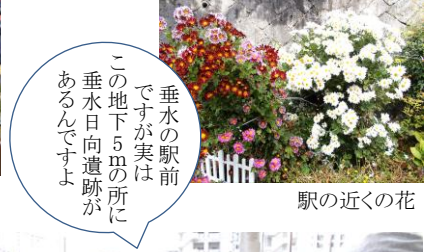
五色塚古墳(千壺古墳)4世紀後半、兵庫県下最大の前方後円墳。全長194m前方部の幅82.4m高さ13m、後円部の直径125.5m、高さ18.8m周囲に周壕。
 被葬者は不明。明石海峡やその周辺を支配した豪族首長と推測される。
 分析の結果、葺石は明石海峡対岸の淡路島から運ばれた『日本書紀』神功皇后の記事と符合。



淡路の野島の崎の
 浜風に
 妹が結びし紐吹きかへす
 卷三二(二五二)
 柿本人麻呂

天離る夷の長通ゆ
 恋ひ来れば
 明石の門より大和島見ゆ
 卷三二(二五五)
 柿本人麻呂

縄文人の足跡 はぎ取った土の堆積断面



垂水の駅前
 ですが実は
 この地下5mの所に
 垂水日向遺跡が
 あるんですよ

駅の近くの花

垂水日向遺跡(レバンテ1番館地下)



平安時代の
 飯蛸壺と網の鍾(おもり)

4500年前の大洪水で堆積した土の中から発見された
 緑色のまま葉っぱと流木

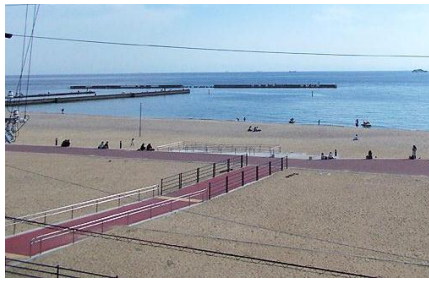


官幣中社 海神社



海上安全・生業繁栄・安産の守護神。
 神功皇后が三韓よりの帰路、暴風怒涛のため、御船が進めないで、皇后自ら綿津見三神を祀り御祈禱をされた、たちまち風波は収まり、無事に都に帰られた。神功皇后が綿津見三神を祀った『延書式』には、播磨の国の「名神大社」と記されている。

須磨人の海辺常去らず
 焼く塩の
 辛き恋をも我れはするかも
 卷十七(二九三二)
 平群氏女郎



駅の傍 須磨の浦 昼食



官幣中社 生田神社



生田の森は 生田神社社殿背後の森。清少納言『枕草子』に「杜は生田の杜」

秋風に
 またこそ訪はめ
 津の国の
 生田の森の
 春のあけぼの
 順徳院

けふもまた
 生田の神の
 恵かや
 ふたたび匂ふ
 森の梅が香
 梶原景季

一ノ谷の戦いや
 足利尊氏の
 古戦場
 でもあった。

(えびら飴)



三宮神社 生田神社八柱の神を一宮から八宮まで祀った中の三番目 湍津姫命(たきつひめ)を祀る



この先の
 元町商店街は
 山陽道(西国街道)
 ですから大宰府
 まで続きます



尻池街園 高市連黒人の歌碑

いざ子ども大和へ早く
 白菅の
 真野の榛原手折りて行かむ
 卷三(二八〇)
 高市黒人



荻藻駅



桜が植えてありますけど
 榛の木を植えてほしかったですね
 何か理由があるのでしょうか



私達は今春、黒人が妻に見せた
 かった角の松原を訪ねました。
 その次の歌が
 いざ子ども大和へ(卷三(二八〇))
 のこの榛原の歌です。
 白菅の真野の榛原行くさ来さ
 君こそ見らめ真野の榛原
 卷三(二八二)は、黒人の妻の歌
 だとされますが、
 妻が詠んだでしょうか